

2005年10月31日

日本拳法会
会長 小西 丕 殿

徳島大学日本拳法部
〒771-013 徳島市南常三島町 2-1
顧問 橋本親典 工学部教授
監督 安崎輝彦 教育学部 OB
徳島大学渭水拳友会
会長 山下佑治 工学部 OB

改良拳法防具使用について（要望）

拝啓 時下 ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊徳島大学日本拳法部におきまして、平成3年から拳の負傷が多発しましたことから、学生が大学生活に支障なく日本拳法を修行するには安全な拳法防具の改良が必要であることを認識し、弊学工学部と同渭水拳友会が協力し、その負傷の原因と対策の科学的な究明を実施して参りました。

その結果、下記に示します現象がその負傷原因であると判断し、その原因に対策を施した安全性の高いグローブと防具面の改良を実現致しました。

平成17年9月初旬以降、これらを弊学拳法部全部員が夏期合宿や通常練習において使用しましたところ、目指すところの改良効果を明確に確認できました。また、公式試合である国公立大会(2005.9.25開催)でも実用致し、同様の結果でした。

今後の公式試合におきましても、これらの改良した安全性の高い拳法防具を自己責任で継続使用致したく、ご承諾を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 防具改良理由

昭和61年秋、徳島大学運動部で練習中に頭部重大傷害事故が発生し当該学生は完治せず退学を余儀なくされた。事故の発生は可能な限り減少させるのが指導者の責務であり安全な防具を必要とした。重大事故の再発は大学当局および関係者に取って大問題になる。安全で装着が容易な防具は久しく要望されていた。安全な防具は日本拳法発展にも貢献する。

2. 負傷原因

- 1) 面金が重くなり防具面の反発力が増加した。
- 2) 面金を打撃した場合のグローブの衝撃吸収効果が低い。
- 3) 防具面の衝撃吸収効果も低い。
- 4) 裸足で試合するので足の負傷が多発した。

3. 改良点

- 1) グローブの外観を変えずして低反発クッション材を内蔵させ、低反発特性を向上させた。
- 2) 防具面を軽くして反発力を下げるため、面金を8mmから7mmに変更し、面布団に低反発クッション材を装着させて衝撃吸収効果を向上させた。
- 3) 防具面の装着性(緊結性、装着簡便性)を向上すべくマジックテープ固定方式に変更した。
- 4) 練習中は警察逮捕術シューズを履く事にした。

4. 改良効果

- 1) 拳負傷が皆無となるとともに、面を打撃された場合の衝撃が大幅に緩和され安全性を著しく向上させた。
- 2) 防具面装着時間が大幅に短縮(10~20秒で装着可能)されるとともに、従来のような試合途中での紐の緩みや解けがなくなった。
- 3) 警察逮捕術シューズ使用により足の負傷は激減した。

5. 使用時期

徳島大学渭水拳友会は現状で改良防具の安全性が従来の防具よりも高いと判断している。より安全と判断できる防具の存在を認知しているにも関わらず使用せず事故が発生した場合の指導者責任は重大になる。現在は全部員が練習に実用し傷害は激減している。よって公式試合でも安全確保のため直ちに使用したい。

以上